

「大川の駅」ニュース

「大川の駅」でつながる
ひと・まち・ものづくり

3号

令和6年4月22日発行



事業者選定委員会の様子



津村委員長（左）、永井副委員長（右）

選定委員会の設置

「大川の駅」整備・運営事業を実施する民間事業者の選定に当たり、競争性及び公平性を確保し、客観的な審査及び評価を行うため、「大川の駅」整備・運営事業者選定委員会を設置しました。選定委員会は、市役所外の有識者の委員8名と市役所職員2名で構成。その第1回目の会議が2月8日に開催され、事業者選定の「審査基準」について審議が行われました。

事業者選定の方法について

公募型プロポーザル方式で決定します。これは、公募により提案を募集し、あらかじめ公表する審査基準により審査を行い、最も優れた提案をした事業者を優先交渉権者として決定する方式です。提案価格が安いことを単に評価するのではなく、提案内容などをより重視して事業者を選定する点が一般的な入札と大きく異なります。

「大川の駅」整備・運営事業者選定委員会 委員名簿

区分	委員名	所属・役職等
委員長	津村 洋一郎	「大川の駅」整備推進協議会 会長 大川商工会議所 会頭
副委員長	永井 彰一	株式会社田園プラザ川場 代表取締役 社長
委員	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科 教授 一級建築士
	箴島 浩	大川信用金庫 理事長
	木下 明子	大川市教育委員
	帆足 千恵	株式会社やまごころ 九州支部 インバウンド観光支援事業部 九州支部マネージャー
	丸田 真大	協同組合 福岡・大川家具工業会 副理事長
	大和 寿子	大川商工会議所女性会会長 大川観光協会副理事長
	橋本 浩一	大川市 副市長
	永島 潤一	大川市 インテリア課長

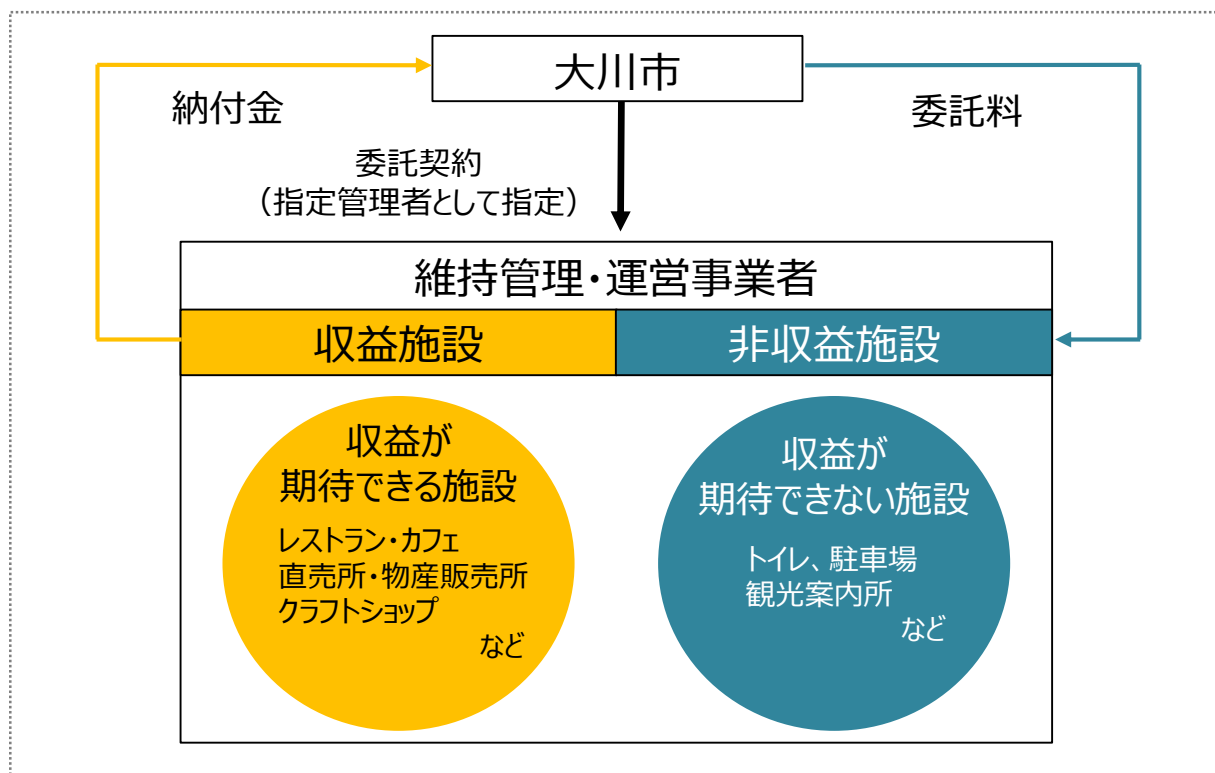


収益施設と非収益施設

「大川の駅」ニュース第2号でもご案内したとおり「大川の駅」には多様な施設が設置・運営されますが、これらの施設は、それ自体から**収益が期待できない施設**と**収益が期待できる施設**に分けることができます。

収益が期待できない施設の維持管理・運営に要する費用については、民間事業者が市の代わりにサービスを提供することの対価として**市が負担**します。

一方、**収益が期待できる施設**については、**民間事業者の独立採算**により運営されることとなります。そこでの売上については、市に納付していただく納付金分を除き、民間事業者の収入となりますが、販売される商品の製造や仕入れ、人件費などについては、民間事業者の完全負担です。また、売上の5%以上を**納付金**として、民間事業者より市に納付していただきます。



「大川の駅」に関するQ&A

Q

「大川の駅」の維持管理・運営にかかる費用はいくら？

A

開業準備期間と開業後**運営期間15年間**の維持管理・運営費は、**最大17億8,400万円（1年当たり約1億1,900万円）**となります。

Q

収益施設の運営が上手くいかなかったとき、市が赤字を負担するの？

A

民間事業者が事業開始前に作成する収支計画に比べ、実際の売上収入が著しく少なくなり、そのままでは収支が赤字となってしまうような場合であっても**赤字分を市が補填することはありません**。民間事業者が負担すべきリスクとして**民間事業者に完全負担していただくこと**になります。

なお、収支が赤字となることをあらかじめ防ぐための仕組みについては、後の号でご説明します。